

兵庫県保険医協会

但馬支部ニュース

No. 182

2025 年 11 月 15 日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部

連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660 谷垣医院

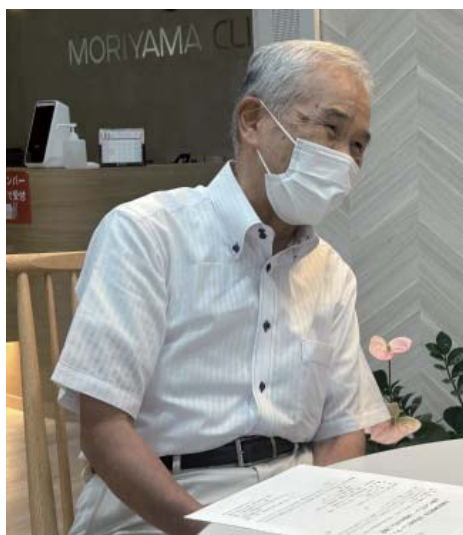
TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

会員インタビュー「但馬の息吹」～守山洋司先生（豊岡市）の巻～

「患者さんの選択を最大限サポートしたい」

泌尿器科医の専門性とホームドクターの汎用性を同等に

但馬の地に根差して診療されている会員へのインタビューコーナー『但馬の息吹』。今回は 2022 年 6 月に開業された、もりやま診療所（豊岡市桜町）の守山洋司（もりやま ようじ）先生を、藤井高雄副支部長（ろっぽう診療所 / 豊岡市今森）が訪ねた。



守山洋司先生（写真右）に藤井高雄副支部長（写真左）が地域医療にかける思いを伺った



藤井:お父様で前院長の守山稔先生には色々とお世話になりました。ある時期「外科・胃腸科の守山先生のご子息が泌尿器科医として医院継承される…」と聞いて少し驚いた記憶があります。以前は岐阜赤十字病院にお勤めでしたよね。

守山: はい。岐阜大学医学部を卒業後、前半の 10 年間は岐阜大学病院とその関
(2 面へ続く)

（1 面から続く）

連基幹病院に、後半の 15 年間は岐阜赤十字病院に勤務していました。

藤井：手術を多く手掛けられてきたとか。

守山：はい。岐阜赤十字病院人工透析泌尿器科部長として、例えば透析のシャントを作る際、『ナナゼロ』という髪の毛ぐらいの細い糸で動脈と静脈を吻合する手術をはじめ、週 5 日は様々な手術をやっていました。中でも自分を成長させてくれたのは、ウロギネと呼ばれる領域の骨盤臓器脱・腹圧性尿失禁の手術です。先輩・後輩の先生方と一緒にこの手術をいち早く導入して、いつしか日本有数のハイボリュームセンターに成長し、岐阜県中の患者さんが来られるようになりました。現在ではこの領域の手術において、豊岡病院と岐阜赤十字病院の手術技術の交流に一役買えたことが、私にとっても嬉しい限りです。とにかく当時は、多くの患者さんの手術をやっていく中でそこから得られる知見があって、自己検証しながら前進していく…診療を通じて確実に楽しさもありましたし、一緒に多くの手術を手掛けた先輩は、日本でもかなり有数の先生でいらして、その先生を押し上げて同じ夢を追いかける…そういう勤務医時代を送ることができたのは超多忙な中でも幸せであったと思います。また、学会発表を定期的にして学会賞などの賞を数回いただくなどの機会にも恵まれました。仕事も多く任されて、ある程度の評価もいただいて…まさに「やり切った」という実感もありました。また、最終的には院長先生より私の方が病院歴が長くなり、院内外の事情に詳しくなりまして、案件によってどこに連絡すれば良いのか、どうすると病院がどういうふうに動いてくれるかなどよく分かってきまして、自分の機転で病院のブランドをいくらか上げていくことに面白さを感じてもしました。ただ、先輩医師と 2 人で同じポジションで年を重ねていくことが果たして良いのか？と思ったり、中核病院とは言え、規模は大きくないので毎週当直が回ってくることは厳しいな…と感じ始めてはいました。また、年齢を重ねて、少し緊張したりすると手が不本意に動いたりするようになってきまして…。

「廃院して更地にする」…から開業・継承へ

藤井：先生なりに年齢もお感じになったのですね。ご勤務時代でもかなりのお立場を築いておられたにも係わらず、豊岡に帰ってこられた直接のきっかけは？

守山：父が「もう廃院して更地にする」と言い出しまして。「もし継承するなら 3

（3 面へ続く）

（2 面から続く）

カ月で戻ってこないと知らんぞ」とまで。私は 4 人兄弟の長男ですが、兄弟のうち医師は私だけでして、父が当院を完全になくすとなると但馬から医師が 1 人減ることになるわけですし、急な話ですが「ここで開業に挑戦して、何か医師としての人生を変えてみよう」と思ったのかも知れませんね。



守山先生（左）に継承にあたって導入した設備を紹介いただく

藤井：親御さんの面倒をみようという点もあったのでしょうか。

守山：はい。この年齢になってくると、「〃家族の営み〃みたいなことをしないといけないのではないか。その準備をするために豊岡に戻ろう」というふうに考えたのだと思います。

求められるものに応え続ける…在宅医療は“進化系”

藤井：泌尿器科の専門外来はもとより、在宅医療にも力を入れておられますね。

守山：力を入れている…という程ではないですが、父の代からの患者さんの足腰が弱り、来院しにくくなって「この状態で医院に来てもらうのは申し訳ないから、じゃあ私が行くよ」という流れですね。これはどの時代でもあまり変わらないのではないかと感じています。

藤井：どなたか特定の先生のスタイルを参考にされたのでしょうか。

守山：いえ。岐阜時代の自分は病院の外来ばかりで、地域医療をあまり正面から考えた経験も、ロールモデルの様なものもありませんでした。ただ当初から、自分の専門にこだわり続けるのではなく「みんなが必要としているものに自分を近づけていかないといけないな」と思っていました。患者さんが求めることに対して、自分が応えられることをやり続ける…それが結果的に地域医療の形になっていくのではないかと。そういう意味で在宅医療はすごく“進化系”という感じがします。

藤井：私も自分が専門とするところ以外は深く知らないので、患者さんの困りごとを聞いたら、柔軟に対応するしかないですね。

（4 面へ続く）

（3 面から続く）

守山：はい。父の得意なやり方を少し見せてもらって覚えたり、他院・他科の先生とお話したり…専門が違うので気をつけるポイントや、アプローチはちょっと違ったりするのですが、それぞれの先生が持っておられるストロングポイントを見せていただくことで「こういうふうにやっていらっしゃるんだ」と、都度勉強になり、治療の幅が広がったような気がしますね。



「患者さん・ご家族の選択を支え続けることが医療では」と守山先生（右）

藤井：医師会をはじめ他の先生方との関係も良好でいらして。

守山：藤井先生のような先輩が声をかけてくださるだけで、私としてはすごく嬉しくて、豊岡に帰ってきたら、自分のために働くのは当然ですが、他の先生に対しては「もう私の体を自由に使ってください！」というふうにすら思っています。先生方の橋渡し役というか、まあ、ハブみたいな。私に着地して、また違うところに飛んでいかれる…そういう感じなら、お役に立てると考えています。

藤井：ホームドクターは、お互いにある程度そういう存在なんですよ。

守山：やり取りを通じて、医師同士の理解が深まる気がします。とにかく温かく迎えていただいて、本当にありがたいと思っていますね。

藤井：私も最初に、ろっぽう診療所所長となって豊岡に着任した折、水曜の夜間診の関係で医師会の会合にいつも遅れて出席していたのですが、ある先生から「来てくれるだけで嬉しいです」と声をかけていただいて、ホッとしたことを思い出します。ところで、ご開業されて診療面や制度面で何か困ったことはありましたか。

守山：診療の面では、今までの延長上にあることであったり、似通っている感じなので、そんなに困ることはなかったのですが、診療以外でのつまづきが多かったですね。経営が大事なのは分かりますが、お金がどういうふうに流れて、どういうふうに管理すべきなのか、よくわからないまままで今日に至ってしまして、「経営者としてまだ全然立ててないなあ」と感じています。お金儲けをしたいわけではないし、「まあ別に自分が生きられればそれでいいか」と思っているぐらいです。でも少し語弊はあるかも知れませんが、（経営に限らず）よくわからないこと

（5 面へ続く）

（4 面から続く）

を、手探りで仕事をしている時の「どうやって解決しようか」という、辛いような、面白いような感覚は大切にしたいと思います。効率の良さを追求して型にはめるのではなく、たくさんの無駄をいっぱい作りながらも求められるものを集約していったら、その先にあるべきスタイルができていくのかな…とも感じています。

生き方、死に方に正解はない…患者さんの選択を全力サポート

藤井：ご趣味のスポーツサイクルで、しかもお1人で訪問診療に行かれることもあるとか。

守山：さすがに遠方は自転車では難しいですが、スタッフにも都合がありますので、自分1人で行った方が早いなと思ひまして。色々な多業種ネットワークを作りながら仕事をしていくというのは、素晴らしいですが難しい部分も多いです。それより自分1人で患者さんに体当たりしてでも、「してほしいこと、気になってること」を掴んで、自分なりにできる医療を目指していきたいと考えています。

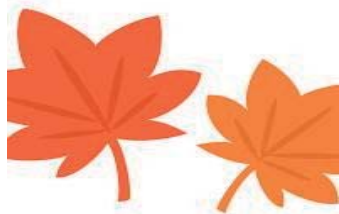
藤井：患者さん、ご家族に頼られてこそホームドクターですものね。

守山：私という医者が存在することだけで心強いと言ってくれる患者さんもうらっしゃいますので。当然私が知っていることはみなお伝えする。専門外のことも、現状はこういう状態になっていて、こういうふうな見通しになっていくと思う…とか。そういうのは、いろんな患者さんを診てきた医者だと分かりますのでね。大切なのは、一生懸命に患者さんを支えているご家族の方の心の負担にならないように、心掛けることぐらいですかね。“正解はないし、不正解もない”と。「どんな生き方であり、死に方であっても間違いではないから、あなたの選択を私は全力でサポートします」と、そんな感じですね。軌道修正はしない。今、在宅で診ている方々も、心不全、消化器癌、肝硬変、脳血管障害など様々です。外来に來れなくなったその方の病気をそのまま診ていくみたいなことですね。それが自分の専門であってもなくても、患者さんに「これを診てほしい」と言われたら診る。わからなければ他の先生に伺ったり紹介する。自分1人で問題解決しようとは思っていないですね。繰り返しですが、“患者さんやご家族が選択されたものが一番いいもの”として、それを支えていくのが医療ではないでしょうか。

藤井：きっと稔先生もご満足されているのではないのでしょうか。

守山：父は私に直接は言いませんが、以前よりは怒られなくなりました（笑）。

藤井：本日はありがとうございました。



幹事会だより

第 255 回 10 月 23 日（木） 参加 5 人

◆但馬支部の会員数と組織率

10/23 現在 医科 99 人（86.5%）、歯科 37 人（52.7%）

◆情勢と医療運動対策

物価高騰などによる各医療機関の受診抑制の現状などを交流した。「支払を暫く待ってほしい…と言う患者さんがおられる」との報告があった。

◆ 2026 年度診療報酬改定研究会

・（医科）2026 年 4 月 11 日（土） 午後 講師：鈴木支部幹事

会場：日高地区コミュニティセンター体育館（仮）

・（歯科）2026 年 4 月 26 日（日） 午後 講師：山田支部幹事

会場：日高地区コミュニティセンター 2F 会議室 6（仮）

◆次回幹事会

11 月 27 日（木）19 時 00 分～「日高地区コミュニティセンター」にて開催予定

健康情報テレホンサービス

固定電話 **（0120）979-451** 携帯電話 **（078）393-1824**



★ 24 時間いつでも 3 分間程度の開業医の手作りの健康・医療情報を放送しています。

★ インターネットでもご覧いただけます。過去の放送分もキーワード検索できます。URL は、<http://www.hhk.jp/> 左下のバナー「健康情報テレホンサービス」をクリック。

【11 月のテーマ】

月曜日／四十肩、五十肩のはなし
火曜日／口内炎
水曜日／自然分娩と帝王切開
木曜日／高齢男性の排尿障害
－ 前立腺肥大症－
金土日曜日／多汗症

【12 月のテーマ】

月曜日／学習障害
火曜日／禁煙しませんか？
水曜日／妊娠中の痔疾患
木曜日／頭を打ったとき
金土日曜日／めまい
年末年始（12/26～1/4）お餅の食べ方

2 次元コードはこちら



※ 祝日は直前の放送日のテーマを放送します。

★ 患者さんに配布していただける放送テーマのミニチラシ（A6 サイズ）を作成しています。
送付ご希望の医療機関は事務局 ☎ 078-393-1840 まで。